

ごあいさつ



芳川豊史教授

みなさん こんにちは。

時の流れは早いもので、2023 年 5 月で、私が名古屋大学呼吸器外科教授に就任させていただいてから、3 年 8 カ月が過ぎました。これまで、お世話になった方々に感謝するとともに、再度、気を引き締めて、名古屋大学呼吸器外科チームを率いていきたいと思っております。まず、最初に、チームの最大の力となる医局員ですが、この 3 年 8 カ月間で 23 名の新しい仲間を迎えることができました。新しい仲間の先生だけでなく、勧誘や指導などに尽力された皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

さらに、嬉しい情報ですが、2023 年 3 月に、名古屋大学医学部附属病院は、正式に肺移植実施施設となりました。思い起こせば、2 年前の 2021 年 4 月に、当時の心臓外科教授碓氷先生との連名で、名大病院の小寺病院長に要望書を提出しましたところ、すぐに快諾いただき、7 月には、ワーキンググループが発足しました。その後は、造血幹細胞移植だけでなく、既に、腎臓、肝臓、心臓移植が日常医療として行われている名古屋大学の底力によって、約半年で申請書を作成でき、2022 年 1 月には肺移植関連学会協議会に正式に申請を行いました。5 月に軽微な修正で合格という第一報をいただき、6 月に修正申請、その後 12 月に書面審査が正式に終了しました。その後、2023 年 1 月にサイトビジットを受け、施設として問題ないと判断いただきました。現在、臓器移植ネットワークと連携して、種々の手続き中ではありますが、予定では、6 月末には、患者登録など、実務的にも正式に始動できそうです。

なお、肺移植の患者さんが、地元で安定して術前後の医療を受けられるように、院内の体制づくりや、肺移植実施施設と連携しての研修を、並行して継続的に進めております。現在、名古屋大学で肺移植前後のフォローを定期的に行っている患者さんも 15 名を超え、呼吸器内科、循環器内科、小児科などと共に患者さんを外来だけでなく入院でも診させていただいております。

さて、名古屋大学呼吸器外科の使命は、臨床、教育、研究の 3 本柱です。我々は、東海・中部地方の核となる名古屋大学、そして名古屋大学病院として、高いレベルで、かつ、バランスよく、この 3 つの使命を全うできるように、日々励んでおります。

臨床面では、日々、手術症例に全力を注いでおります。総手術数も肺癌手術数も共に、毎年、前年を上回るペースです。2022 年(1 月から 12 月)は、461 件の全身麻酔手術を行いました。このうち原発性肺癌は 289 例で過去最多でした。転移性肺癌は 53 例、縦隔腫瘍は 35 例でした。手術のアプローチは、約 8 割を内視鏡手術で行っており、詳しくは、胸腔鏡手術(VATS)180 件、ロボット支援下手術(RATS)166 件、通常開胸手術 115 件でした。手術においては、低侵襲な内視鏡手術(VATS や RATS)での対応を常に考えますが、根治性や安全性を第一に、適宜、通常の開胸手術でのアプローチも行っております。もちろん、大学病院ならではの大きな手術も多く、拡大手術においては、同門である心臓外科教室との連携を武器に、大血管処置のいる縦隔腫瘍や肺癌の手術においても即座に対応できる体制をとっております。さらに、どのような呼吸器外科症例にも対応できる体制をこれまで通り維持しております。これもひとえに、当院の強みである呼吸

器内科、放射線診断科・治療科との連携、関連病院を含む地域医療の先生方からの患者さんのご紹介の賜物と理解しております。

教育面では、外科医離れが進む流れの中で、呼吸器外科のプレゼンスを示すべく、名古屋大学の学生教育だけでなく、関連病院と一体となって、研修医および学生の教育や勧誘を進めております。名古屋大学は、東海・中部地区に多くの関連病院を抱えており、大学から多くの医師を派遣しておりますが、未だ呼吸器外科医が不足しているというのが実情です。この問題を解消すべく、一人でも多くの若手医師が、我々のチームの一員になってくれることを望んでおります。なお、芳川が、名古屋大学医学部の臨床実習実施委員会の委員長をしていることもあり、学生教育にも積極的に関わっており、名古屋大学出身者の入局も増えております。また、医学生だけでなく若手医師に対しても、定期的に、ドライラボ、ウェットラボなどの様々なトレーニングを企画するとともに、最新の呼吸器外科・内科に関するセミナーを企画しております。

研究面では、大学としての使命として、科学研究費やAMEDなどの競争的資金に積極的に応募しております。現在、数本の科研費(B、C、若手)を獲得し、忙しい日常臨床の合間を縫って研究を進めております。分子生物学的な研究だけでなく、実臨床に近い、外科手技に関係するような研究も積極的に行っております。例えば、[AMED メディカルアーツの研究をもとに、手術操作や脱気による肺の変形に対応したアルゴリズム](#)を開発し、将来的な手術ナビゲーションを目指すという研究を進めております。今後、名大オリジナルの価値ある成果物を世に出せるよう継続して精進していく方針です。

さらに、本年は、4月2日に、第303回東海外科学会を主催させていただきました。さらに、6月3、4日に、第141回日本結核・非結核性抗酸菌症学会東海支部学会、第123回日本呼吸器学会東海地方会、第26回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会中部支部会の3学会合同地方会を、9月1、2日に、第6回日本蛍光ガイド手術研究会を主催させていただきます。皆様のおかげで、東海外科学会は成功裡に終えることができました。あと2つの学会も、教室員を含め、皆様のご協力のもとに成功させたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年も、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。